



石東中だより

6月号 平成27年6月19日
発行者：練馬区立石神井東中学校
校長 堀井安伸

自主自立の精神（運動会）

校長 堀井安伸

本校の2大行事のひとつである運動会が、去る5月23日（土）、晴天にも恵まれ、多くのご来賓、保護者、地域の皆様のご参観の中、開催することができました。皆様には、ご多用の中ご参観いただき感謝申し上げます。生徒、教員のみならず皆様にも感動の運動会だったのではないかと感じております。

本校では、毎年、この運動会を伝統行事として取り組んでいます。今年も見事に伝統が継承できたものと思っています。生徒たちの真剣な演技や競技とともに、係の仕事や応援席での態度、集団行動も大変素晴らしいものでした。実行委員長を始めとする各委員、係の生徒たちが、自分たちの手で運動会を成功させようという熱い思いが、伝統を継承し、見るものを感動させ、自身も達成感や充実感を味わうことができたのだと思います。

この、生徒たちの**自主的、主体的な行動**は、人間的な成長には欠かせないものです。主体的な行動によって、**自立の精神**を育み、自立は大人への第一歩となるからです。今回の運動会で、特に3年生が中心となり、各々、様々な目標や思いをもって、自主的に行動したことが、全校生徒一人一人の成長の確かな一歩になったことが何よりの成功だと思っています。

そこで、一人の生徒の感想文を紹介させていただきます。



「最上級生としての運動会」

私はこの運動会を通じて、1年生や2年生のときのように楽しかった、頑張ったという気持ち以外に2つ感じたことがある。

まず1つ目は、3年生が始まってから2ヶ月しか経っていないクラスで絆を深めることができた喜びである。特にそれを感じたのは「大むかで競走」である。はじめて練習したときは他のクラスに比べて4組の男子はリズムを合わせることができず1周歩くことさえ難しかった。そういった状態が続くことでクラスのほとんどがやる気をなくしてしまった。そんな中でみんなの気持ちを変えたのは先生からの一言である「このままでは見ている人に感動は与えられないぞ」という言葉だ。その言葉を聞いてからはこの競技に対して真剣に取り組むようになり、本番では4位だったものの今までで一番上手だった。また段々みんなとの息が合うにつれてみんなとの絆が深まったように感じた。

そして2つ目は、最上級生として下級生の見本となるように1つ1つの演技に取り組んだことだ。特にそれを感じたのは「組体操」だ。組体操は1年、2年と今まで同じことをしてきたので3年も同じようにすればいいと最初は思っていた。しかし実際に全体練習をしてみると、下級生が私達最上級生を常に見ている視線を感じた。そのとき私は、下級生の見本になるために最上級生が一步先の高度な演技をする必要があることに気づいた。それからは全ての演技に対して指先まで力を入れ、最後の七段ピラミッドを完成した時の周りからの拍手を聞いたときは、最上級生としての使命をはたせたのではないかと考えた。

今年の運動会は今までとは違い、クラスの絆や最上級生としての責任を感じることができた。このことはこの運動会で終わらせるのではなく、合唱コンクールや日々の生活に生かしていきたいと思った。

3年男子

この他の感想文でも、同様にほとんどの生徒が「感動した」ことを述べていました。

今後も本校は、日常の授業の充実はもとより生徒たちを一段と成長させてくれる各種行事にも益々力を入れて取り組んでいきます。保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご理解とご支援をいただけますようお願いいたします。

ご意見をお寄せください。03-3996-2158（校長室）
ホームページ：<http://www.shakujii-e-j.nerima-tyky.ed.jp/>

